

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-192616

(P2017-192616A)

(43) 公開日 平成29年10月26日(2017.10.26)

(51) Int.Cl.

A47C 1/121 (2006.01)

F1

A47C 1/121

テーマコード(参考)

3B099

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2016-85766 (P2016-85766)
 (22) 出願日 平成28年4月22日(2016.4.22)

(71) 出願人 510274430
 コトブキシーティング株式会社
 東京都千代田区神田駿河台1-2-1
 (74) 代理人 110002000
 特許業務法人栄光特許事務所
 (72) 発明者 大野 康
 東京都千代田区神田駿河台1丁目2番1号
 コトブキシーティング株式会社内
 Fターム(参考) 3B099 FA10

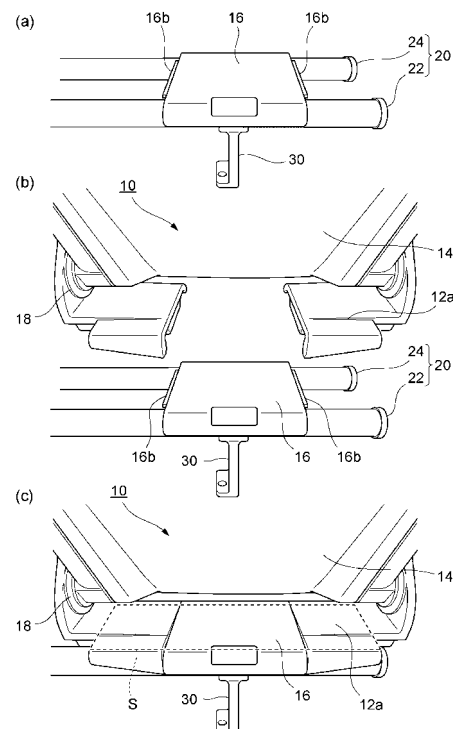
(54) 【発明の名称】 座起立式椅子

(57) 【要約】

【課題】従来の固定椅子からの交換作業の負担を軽減するとともに、安全性をも確保した座起立式椅子を提供する。

【解決手段】少なくとも2本の並列された棒状部材22、24の上に設置可能な座起立式椅子10であって、2本の棒状部材22、24の上に設置される1対の取り付け部12aを有する背12と、背12の前方に位置し、着座可能な使用位置と跳ね上げられた起立位置との間で揺動可能な座14と、2本の棒状部材22、24の上であって1対の取り付け部12aの間に配置され、かつ、2本の棒状部材22、24の間の空間Yを覆うカバー16と、を備える。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

少なくとも 2 本の並列された棒状部材の上に設置可能な座起立式椅子であって、
前記 2 本の棒状部材の上に設置される 1 対の取り付け部を有する背と、
前記背の前方に位置し、着座可能な使用位置と跳ね上げられた起立位置との間で揺動可能な座と、

前記 2 本の棒状部材の上であって前記 1 対の取り付け部の間に配置され、かつ、前記 2 本の棒状部材の間の空間を覆うカバーと、
を備える座起立式椅子。

【請求項 2】

10

請求項 1 に記載の座起立式椅子であって、
前記 1 対の取り付け部および前記カバーが、前記使用位置に位置した前記座の下面に対向する単一の平面を形成する、座起立式椅子。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の座起立式椅子であって、
前記カバーが、両端から突出した突状部を有し、
前記 1 対の取り付け部が前記突状部の上に配置される、座起立式椅子。

【請求項 4】

20

請求項 3 に記載の座起立式椅子であって、
前記 1 対の取り付け部の各々がボルト穴を有し、
ボルトが通過可能な通過穴を有する固定部材が、前記 2 本の棒状部材の下方に配置され

、
前記ボルトが前記 2 本の棒状部材の下方から前記通過穴を通過して前記ボルト穴に螺合することにより、前記 1 対の取り付け部が、前記突状部を上から前記 2 本の棒状部材の側に押圧するとともに、前記ボルトが、前記固定部材を下から前記 2 本の棒状部材および前記 1 対の取り付け部の側に押圧する、座起立式椅子。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

30

本発明は、観覧席や競技場の観客席等に好適に使用される座起立式椅子に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、観覧席や競技場の観客席等に使用される座起立式椅子には、背と、座と、背の両側に設けられた座支持部材とを備え、座が着座可能な使用位置と跳ね上げられた起立位置との間で揺動可能に座支持部材に支持されているものが用いられている。

【0003】

観覧席や競技場の観客席等には、未だに座起立式椅子ではなく、座が使用位置に固定されたままである固定椅子が設置されているものも存在する。座起立式椅子は固定椅子に比べて、椅子の間の通路の幅を大きく確保することができるとともに、背および座の寸法を大きくすることができるため、固定椅子の代わりに座起立式椅子を導入する事例が増加している。

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】特開 2009 - 160030 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

上記のような事情に鑑み、固定椅子を採用している観覧席や競技場の観客席等を、座起立式椅子へ交換するプロジェクトが提案されつつある。よって、簡易に固定椅子を座起立

50

式椅子へ交換するための構造、方法が求められている。

【 0 0 0 6 】

本発明は、従来の固定椅子からの交換作業の負担を軽減するとともに、安全性をも確保した座起立式椅子に関する。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

本発明の座起立式椅子は、少なくとも 2 本の並列された棒状部材の上に設置可能な座起立式椅子であって、前記 2 本の棒状部材の上に設置される 1 対の取り付け部を有する背と、前記背の前方に位置し、着座可能な使用位置と跳ね上げられた起立位置との間で揺動可能な座と、前記 2 本の棒状部材の上であって前記 1 対の取り付け部の間に配置され、かつ

10

【発明の効果】

【 0 0 0 8 】

本発明の座起立式椅子によれば、従来の固定椅子からの交換作業の負担を軽減するとともに、安全性をも確保することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 9 】

【図 1】図 1 は本発明に係る実施形態の座起立式椅子が複数設置された状態を示す斜視図。

20

【図 2】図 2 は実施形態の座起立式椅子および貫材を示す拡大図であり、(a) は座起立式椅子の座および背の取り付け部を示す拡大図であり、(b) は背の取り付け部が貫材に取り付けられた状態を示す拡大図。

【図 3】図 3 は座起立式椅子の一部品であるカバーを示す図であり、(a) はカバーの正面図、(b) はカバーの平面図、(c) はカバーの側面図。

【図 4】図 4 は座起立式椅子を貫材に配置する手順を示す図であり、(a) はカバーを貫材の上に配置した状態を示す図であり、(b) はカバーの両側に座起立式椅子の背の取付け部を配置する状態を示し、(c) は座起立式椅子を貫材の上に配置した状態を示す図。

【図 5】図 5 はカバーがない状態において、1 対の取り付け部および 2 本の棒状部材の間に形成される空間を示す図。

30

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 0 】

以下、本発明の実施形態を、図面を参照して詳細に説明する。図 1 は、本発明に係る実施形態の座起立式椅子が複数設置された状態を示す斜視図である。座起立式椅子 10 は、劇場や競技場等の床に固定された脚 30 上に配置された貫材 20 の上に設置可能である。座起立式椅子 10 は、人の背中を支える背 12 と、座 14 とを備える。座 14 は座支持軸 18 によって背 12 に接続しており、座 14 は、座支持軸 18 を中心として、人が着座可能な使用位置と跳ね上げられた起立位置との間で揺動可能である。図 1 は、座 14 が未使用の起立位置にある状態を示している。

【 0 0 1 1 】

図 1 の座起立式椅子 10 は、その前後においても通路を隔てて配置されている。そして、図 1 に示すように、未使用の状態において座 14 は起立するため、従来の座が使用状態で固定されて揺動しない固定椅子に比べて通路の幅を大きく取ることができ、人の通過が容易となる。また、背 12 と、座 14 の寸法をより大きく取ることができるため、従来の固定椅子に比べて座り心地を向上させることができる。このため、新しく設置される競技場の観客席等には、座起立式椅子を採用される事例が多くなっている。また、従来の固定椅子が設置された競技場についても、座起立式椅子に交換する事例が見られるようになってきている。

40

【 0 0 1 2 】

図 2 は、座起立式椅子 10 および貫材 20 を示す拡大図である。図 2 (a) に示すように、座起立式椅子 10 の背 12 は、その最下端において、板状の 1 対の取り付け部 12 a

50

を有する。取り付け部 12 a は、背 12 の横方向の端部から内方向に延びており、1 対の取り付け部 12 a の間には空間 X が設けられる。座起立式椅子 10 は、この空間 X を埋めるように貫材 20 の上に配置されたカバー 16 を更に備えている（図 1 参照）。

【0013】

図 1、図 2 (b) に示すように貫材 20 は、2 本の並列された棒状部材 22、24 から構成されている。本実施形態では、棒状部材 22、24 は断面が円形の長尺の円筒部材によって構成され、互いに所定の距離を隔てて平行に配置される。そして、背 12 の取り付け部 12 a が貫材 20 の棒状部材 22、24 の上に配置され、設置される。

【0014】

カバー 16 は、1 対の取り付け部 12 a の間の空間 X に設けられており、同時に 2 本の棒状部材 22、24 の間に形成される空間 Y も覆う。さらに 1 対の取り付け部 12 a は、ボルトと螺合可能なボルト穴 12 b を、その下面に有している（図 2 (a) 参照）。そして、図 2 (b) に示すように 1 対の取り付け部 12 a が 2 本の棒状部材 22、24 の上に配置された状態で、ボルト 26 が通過可能な通過穴を有する固定部材 28 が、2 本の棒状部材 22、24 の下方に配置されており、ボルト 26 が 2 本の棒状部材 22、24 の下方から通過穴を通過してボルト穴 12 b に螺合する。このような構造により、座起立式椅子 10 は、貫材 20 を構成する 2 本の棒状部材 22、24 の上に設置され、固定される。

【0015】

図 3 は、座起立式椅子 10 の一部品であるカバー 16 を示す図であり、図 3 (a) はカバー 16 の正面図、図 3 (b) はカバー 16 の平面図、図 3 (c) はカバー 16 の側面図をそれぞれ示す。カバー 16 は、平板の全体形状を呈し、前方には略楕円状の標識部 16 a が設けられ、標識部 16 a には座席番号を示すシールなどが貼付可能である。さらにカバー 16 は広告などが貼付可能な上面部 16 c、両端から突出した突状部 16 b、上面部 16 c の裏面から下方に突出した凸部 16 d を備える。凸部 16 d の一部は削除されており、それぞれ湾曲した前側湾曲凹部 16 e、後側湾曲凹部 16 f が形成されている。

【0016】

図 4 は、座起立式椅子 10 を貫材 20 に配置する手順を示す図である。まず、図 4 (a) に示すように作業者は、カバー 16 を、貫材 20 の 2 本の棒状部材 22、24 の上に配置する。図 3 で示したカバー 16 の前側湾曲凹部 16 e、後側湾曲凹部 16 f は、2 本の棒状部材 22、24 に沿うような湾曲形状をしており、前側湾曲凹部 16 e、後側湾曲凹部 16 f が、2 本の棒状部材 22、24 の上に安定的に配置される。

【0017】

次に、図 4 (b) に示すように、作業者は、カバー 16 の両側に座起立式椅子 10 の背 12 の 1 対の取り付け部 12 a を合わせるように座起立式椅子 10 を持ち上げたうえで、貫材 20 に近づける。そして、図 4 (c) に示すように、作業者は、座起立式椅子 10 を貫材 20 の 2 本の棒状部材 22、24 の上に配置する。この場合において、図 3 で示したカバー 16 の両端の突状部 16 b の上に、1 対の取り付け部 12 a が配置される。この結果、カバー 16 は 1 対の取り付け部 12 a と係合し、カバー 16 の横方向への動きを抑制するとともに、カバー 16 のみが外れてしまうことを防止することができる。

【0018】

最後に作業者は、図 2 (b) で示したように、下方からボルト 26、固定部材 28 を 2 本の棒状部材 22、24 および 1 対の取り付け部 12 a に取り付ける。すなわち、作業者は、ボルト 26 を 2 本の棒状部材 22、24 の下方から、固定部材 28 の通過穴を通過させてボルト穴 12 b（図 2 (a) 参照）に螺合する。この結果、背 12 の 1 対の取り付け部 12 a が、カバー 16 の突状部 16 b を上から 2 本の棒状部材 22、24 の側に押圧するとともに、ボルト 26 が、固定部材 28 を下から 2 本の棒状部材 22、24 および 1 対の取り付け部に対して押圧する。尚、本実施形態では、最終的な設置状態において、突状部 16 b は 2 本の棒状部材 22、24 に直接接触しないが、固定部材 28 は、2 本の棒状部材 22、24 および 1 対の取り付け部 12 a の下面に直接接触する。

【0019】

この結果、背 1 2 の 1 対の取り付け部 1 2 a およびカバー 1 6 は一体的にかつ確実に貫材 2 0 の 2 本の棒状部材 2 2、2 4 に固定され、座起立式椅子 1 0 の安定的な設置が確保される。最終的に、図 4 (c) に示すように、1 対の取り付け部 1 2 a の上面およびカバー 1 6 の上面部 1 6 c は、使用位置に位置した座 1 4 の下面に対向する単一の平面 S を形成することになる。実質的に単一の平面 S が 1 対の取り付け部 1 2 a およびカバー 1 6 の上側に形成され、突起や段部が形成されないため、人が座 1 4 に着座したい際、座 1 4 がスムーズに使用位置まで移動することが可能である。

【 0 0 2 0 】

図 5 は、カバー 1 6 を取り付けずに座起立式椅子 1 0 を 2 本の棒状部材 2 2、2 4 の上に配置した状態において、空間 X、空間 Y が形成されている状態を示す図である。カバー 1 6 を使用しない場合は、このような空間が形成されてしまうため、不注意により手などが空間に巻き込まれるおそれがあるが、カバー 1 6 が取り付けられることにより、座起立式椅子 1 0 の取り付けの利便性のみならず安全性も向上する。尚、本実施形態では、カバー 1 6 を 2 本の棒状部材 2 2、2 4 に配置した状態で、カバー 1 6 の裏面 (下面) の凸部 1 6 d と、脚 3 0 の上端をボルト 3 2 により 2 本の棒状部材 2 2、2 4 に固定する固定部材 3 4 とが接触する。よって、カバー 1 6 はより安定して、2 本の棒状部材 2 2、2 4 の上に配置される。

【 0 0 2 1 】

固定椅子のような従来型の椅子が 2 本の棒状部材 2 2、2 4 に配置され、この椅子を本実施形態の座起立式椅子 1 0 に交換する場合には、従来型の椅子を 2 本の棒状部材 2 2、2 4 から取り外した後、図 4 に示した手順で座起立式椅子 1 0 を配置することが可能である。よって、貫材 2 0、脚 3 0 を従前の状態で残したまま、座起立式椅子 1 0 を配置することが可能である。貫材 2 0、脚 3 0 の交換作業は負担が大きい作業であり、本実施形態の座起立式椅子 1 0 を用いることにより、交換作業の負担を削減することができる。すなわち、時間やコストをかけずに、簡易に固定椅子を座起立式椅子へ交換するためことが可能である。

【 0 0 2 2 】

上記実施形態では、カバー 1 6 は、背 1 2 の 1 対の取り付け部 1 2 a とは別体に形成されているが、カバー 1 6 を取り付け部 1 2 a と一体で成形してもよい。

【 0 0 2 3 】

座起立式椅子 1 0 を構成する各部品、部分の材料は金属、樹脂など特に限定はされない。また、本実施形態では貫材 2 0 は、2 本の棒状部材 2 2、2 4 により構成されているが、貫材を構成する棒状部材の数は 2 本以上であって、間に空間があるものであれば特に限定はされない。

【 0 0 2 4 】

尚、本発明は、上述した実施形態に限定されるものではなく、適宜、変形、改良、等が可能である。その他、上述した実施形態における各構成要素の材質、形状、寸法、数値、形態、数、配置箇所、等は本発明を達成できるものであれば任意であり、限定されない。

【 産業上の利用可能性 】

【 0 0 2 5 】

本発明に係る座起立式椅子は、従来の固定椅子からの交換作業の負担を軽減することにより、交換作業の時間的、費用的負担を削減することができ、さらには安全性をも確保したものである。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 6 】

- 1 0 座起立式椅子
- 1 2 背
- 1 2 a 1 対の取り付け部
- 1 4 座
- 1 6 カバー

10

20

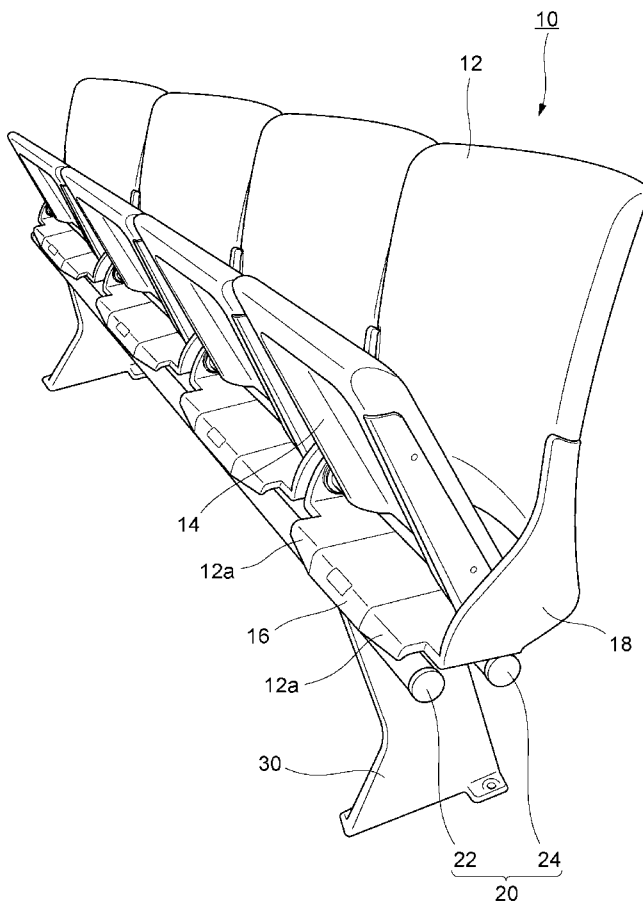
30

40

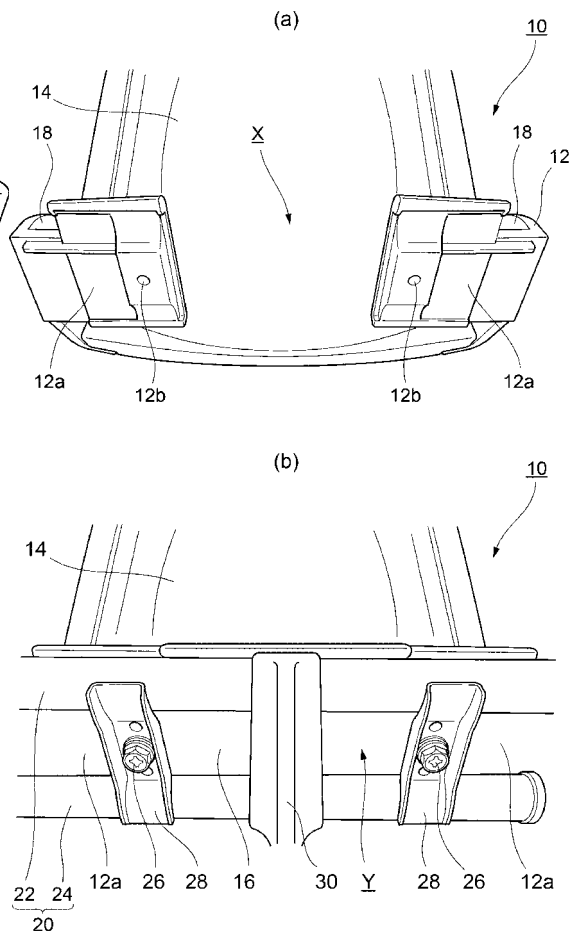
50

- 1 6 b 突状部
2 0 貫材
2 2、2 4 棒状部材
3 0 脚
S 単一の平面
X、Y 空間

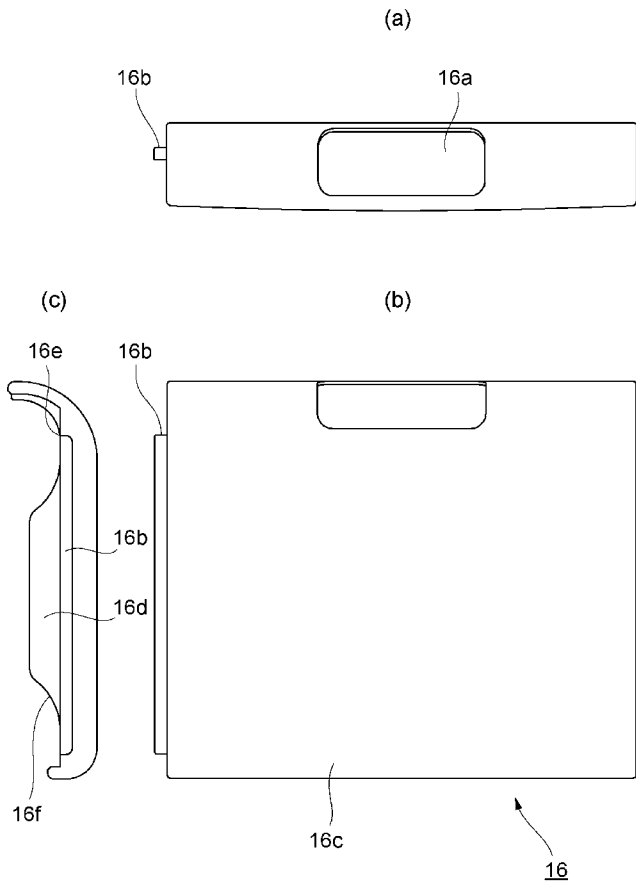
【 圖 1 】



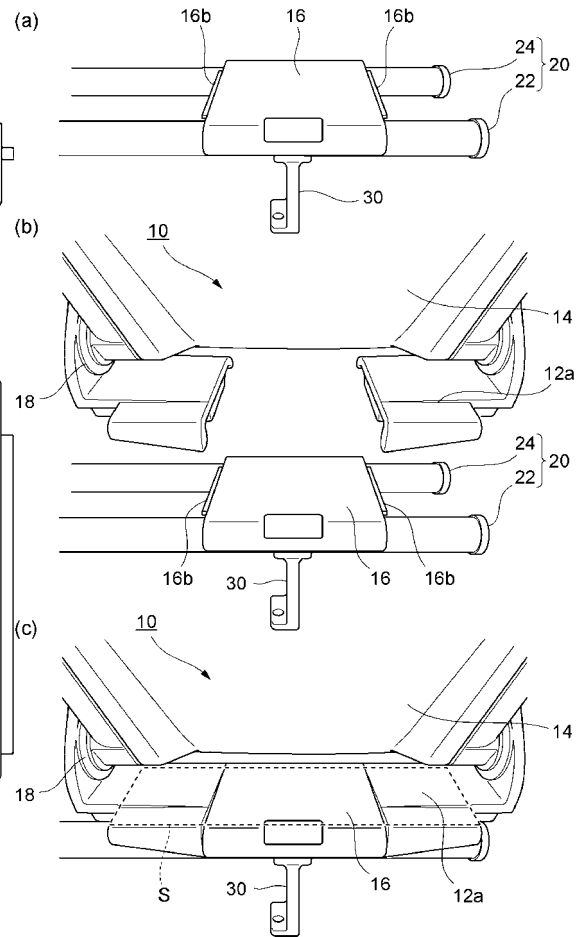
【 図 2 】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

